

支部長・知的障害者相談員等 合同研修会

2019年11月28日(木)



**第6回全国手をつなぐ育成会連合会
全国大会 (熊本大会)**

2019年11月23日(土)・24日(日)



地域事業所部会 職員研修会

2019年10月26日(土)



**学齢期モコモコサークル
親子で楽しもう! イベント**



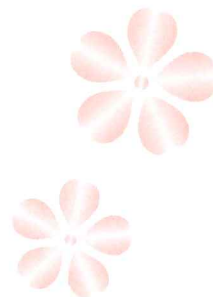
手をつなぐ
とやま

第172号

富山県手をつなぐ育成会
富山市安住町5-21
富山県総合福祉会館内
TEL 076-441-7161
FAX 076-441-7255
mail toikusei@minos.ocn.ne.jp
HP <http://toyamaikusei.jp/>
発行責任者
平野 幹 夫

みなさんの会報です
よく読みましょう

あなたです!
差別されるのも
されるのも



新年のごあいさつ



理事長 四方 正 治

— 運転は 心の広さの バロメーター —

皆様方には、新しい年を心新たに気持ちでお迎えのこととお慶び申し上げます。

平素から、育成会活動に力強いご支援、ご協力を賜り、心からお礼申し上げます。

さて、戦後、東京に住む3人のお母さんたちの呼びかけから始まった育成会運動により、今日、学校や多様な福祉サービスが当たり前に選べる時代になりましたが、もちろん将来にわたっての安心した生活が約束されるものではありません。

まだまだ高齢化や医療ケア、親亡き後問題など、多くの課題が山積しています。

昨年6月、新しい時代を拓く令和元年の全国手をつなぐ育成会連合会総会において、様々な課題に对应していくと、組織の充実を図り共に活動していくことを確認し

合い、一般社団法人の取得に向けての手続きを進めることが承認されました。

法人化への準備として、昨年9月、従来の滋賀事務所に加えて東京事務所を立ち上げ、事務局体制を整えるとともに、新規事業として保険代理事業を行い、運営財源の確保に資することとしています。

昨年9月に石川県で開催された東海北陸手をつなぐ育成会大会では、共に暮らす、共に生きる優しい社会を、「理想」から具体的に「実感」できるように変えていくと、各分科会を通して熱い議論が交わされました。

11月に熊本県で開催された全国大会では、「一人ひとりを認め合う社会の実現」を切に願い、全国の仲間とともに共生社会づくりを進めていく決意を新たにしました。

次に、県育成会の1年間の活動

を振り返りますと、6月の県大会では、全国育成会連合会の久保会長に、「親亡き後のために今からできること」と題してご講演していただきました。

「権利擁護推進委員会」の活動報告では、一つは、親の不安に寄り添う「学齢期支援プロジェクト」に継続して取り組み、親同士や先輩会員との交流の場となるよう、親子イベントの企画を進めてきました。

二つ目には、富山市育成会の「親亡き後問題調査研究事業」の2年目の取り組みにあわせて、県内各エリアでも同様に、「何を、誰に引き継ぐのか」をテーマに勉強会を行ってきました。

親子イベントや、勉強会の場を活用して、「あんしんサポートノート」を数ページずつ書いていく取り組みも始めております。

このようなエリアでの取り組みを今後とも大切に育てていただき、本人や家族への支援、そして会員拡大につなげていただくよう念願いたしております。

今年は、オリンピック・パラリンピックの開催を迎え、政府一丸となつて、心のバリアフリーの啓発や環境整備を推進しています。「障害者の文化芸術の祭典」も

全国各地で展開され、多様性を認める社会づくりへのきっかけを目指しています。

申すまでもなく、差別や偏見は法律が整備されたからと言って、すぐに無くなるものではありません。子どもへの虐待は後を絶ちませんし、引きこもりも無くなりません。

育成会としては、このような時にこそ、障害のある人もない人も互いに納得できるような合理的配慮の提供や生活環境の整備がなされているのかどうか、会員おのものが注視し、地域の福祉資源として何が活用できるのか、安心した地域生活を送るためには何が足りないのか、災害時への備えは具体的にどうなのかなど、地域の生活課題を点検していくことが極めて大事であります。

どうか会員の皆様には、共に手をつなぐという育成会の原点を忘れることなく、各障害者団体とも連携協力しながら、「親亡き後も安心して暮らせる地域づくり」に、しっかりと取り組んでいただきたいと思います。

結びに、関係各位の変わらぬご理解と一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

支部長・知的障害者相談員等 合同研修会

テーマ「防災と地域づくり」

11月29日(金)、支部長・相談員等合同研修会を、呉羽ハイツで開催しました。

令和元年は九州豪雨や台風などにより、全国各地で甚大な被害が発生しました。今回は、このような状況を踏まえて、愛知県武豊町育成会会長として、また、愛知県育成会の副会長、事務局長としてご活躍の、倉知楯城さんを講師にお迎えし、「防災活動を切り口に、地域とのつながりへと広がった育成会活動」について、お話ししていただきました。

全国的に、どの育成会も会員減少に悩んでいます。愛知県武豊町育成会には、倉知さんが会長職を引き継いだ平成19年頃には、自然消滅の危機にあったそうです。

そんな中、自主防災活動や、ボランティア活動が盛んである武豊町の特色を切り口に、「地域とつながりを持つ」ことに着目し、町の防災ボランティアの会などで知的障害の理解啓発活動を進めた

り、地域の自主防災会に参加した倉知さん。

折しも平成23年の東日本大震災を教訓に、地域の人たちは防災(自助・共助)への意識が高まり、行動障害のある人たちの家族は、福祉避難所の運営を危惧し、意識を高めるなど、この活動は多くの人に関心を引き寄せました。

また、小さな町という特徴を活かし、武豊町内全ての福祉サービスマネジメントと連携した活動や、若い保護者やお子さん自身が興味を示すイベント等の展開に、若い人が興味を持ち、クチコミで広がり、今では3倍近く育成会会員が増え、その7割は学齢期の保護者だということでした。

愛知県育成会では、この武豊町の「世代交代」や「町」の特色を活かした「取り組みを、県内の各地区育成会へと展開するべく、地区長研修会で現状や課題の情報交換、工夫や努力している事などの話し合いを続けているそうです。

午後からは、最初にサポ

ートを使って、本人のヘルプカードと災害準備品の記入から、グループワークを始めました。避難所生活では、家族にとつてどんな苦労や心配事が想定されるか、そのためには、どのような「備え」が必要なのか、明日からでも出来る事は何かを話し合いました。

やはり、「避難所生活は無理」という声が多く、そのためには、「福祉避難所」の確認や、「避難行動要支援者名簿」の情報開示に同意することから始めること。また、地域や町内の防災訓練に家族で参加し、本人のことや特性を知ってもらっておくこと、本人の服薬や特性を記録しておくこと(サポートノート)の活用)等の意見が、各グループから発表されました。



なお、研修会場では、富山市の「株式会社カワノ」様にご協力いただき、防災グッズ、非常食、段ボールベッドなどを展示、使い方の説明もしていただきました。



富山県は台風や地震の被害が少なく、いざという時の「備え」の意識が希薄ですが、今回、防災意識を高めるとともに、「地域の特色を捉え、地域全体に広げていく」という地域活動のお話しは、大変参考になりました。今後は、県内それぞれの、地域の特色を活かした活動などの情報交換をもっと密にして、育成会活動の活性化につなげていきたいと思えます。

— みんなで 守ろう 子どもと 老人 —

第6回 全国手をつなぐ育成会連合会 全国大会(熊本大会)

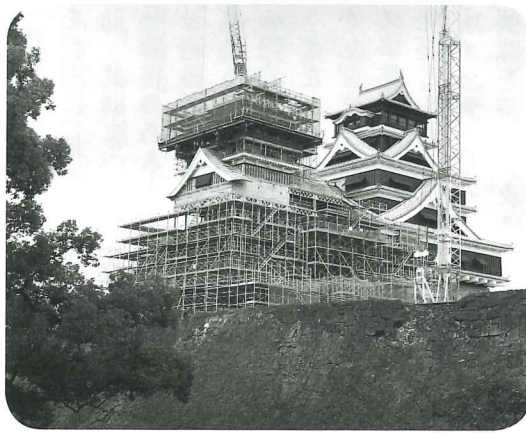
令和の時代に移って初めての全国大会は、平成28年4月の地震発生から3年、今もなお、復興の道を歩む熊本県熊本市で開催され、富山県育成会からは30名(内、本人10名)が参加しました。
全国各地から、2千300名もの方が集まったそうで、大盛況の大会となりました。

11月22日(金)、ある本人さん曰く、「ジェットコースターみたいだった」というほど、大揺れに揺れた飛行機で、冷汗をいっぱいかいて熊本に降り立ちました。

1日目は熊本城観光です。熊本地震から約3年半、着々と復旧が進められてきた熊本城ですが、10月初旬に特別公開が始まり、天守閣の姿がより近くから見られるようになりました。

特別公開は日曜・祝日のため、私たちは立ち入りが許可された場所からの見学でしたが、クレインに囲まれながらも、白と黒の大天

守閣の堂々たる偉容は、まさしく熊本復興のシンボル。とても感動しました。



1万円以上から可能な「復興城主」になる人、初日から抱えきれない程のお土産を買いこんだ人、それぞれ、熊本復興に微力ながらも協力。
夜は全員で、熊本の味を堪能し、翌日からの大会に備えました。

— 曲り角 とまる習慣 待つしつけ —

〈全国大会 1日目〉

大会会場は、新しく完成した「熊本城ホール」。今大会はこの会場のプレオープンイベントの一つに構成され、真新しい広々とした空間と、長い長いエスカレーターは圧巻。エントランスロビーには、県内各支援学校の生徒さん方の作品が、ずらりと並んでいました。

「一人ひとりを認め合う社会の実現」熊本のこころを全国に〜」を大会スローガンに、育成会大会では、「育つ・学ぶ」、「働く」、「暮らす」、「権利擁護」、「地域育成会の活性化」の5つのテーマで分科会が行われました。



参加者それぞれ、思い思いの分科会に出席しましたが、終了後、あざみ園の安川さんが、充実したお顔で「いや、本当に来て良かった。いい話を聞いた。」と、歓心しきりだったため、今回、分科会の感想をいただきました。

懇親会では、幻想的な「山鹿灯籠踊り」が披露され、全国からの参加者が交流を深めました。



〈全国大会 2日目〉

2日目は式典と記念講演が行われました。

記念講演は熊本県出身、「くまモン」の生みの親である小山薫堂さんによる「幸せの企画術」。

小山さんには、ダウン症の弟さんがいらっしやいますが、そこは簡単に触れながら、アイデアと好奇心、人を幸せにしようという思い、どことつながっていくのかを考えると、淡々とした口調ながら、時には笑いあり、時にはホロリとさせられる、とても魅力的なお話しでした。

もちろん、「くまモン」も登場して、生みの親と日本中の人気者の共演に、会場は大いに盛り上がりました。

冊子「手をつなぐ」にまつわるうれしい話

東海北陸大会などでも披露されていますが、全国大会の式典でも久保会長からお話しがあったので、ここに紹介します。

昨年3月、京都御所で天皇陛下の即位30年を記念した茶会に、全国育成会連合会の久保会長が招待されました。

その際、「手をつなぐ育成会で」とご挨拶すると、美智子皇后さま（現・上皇后）が、「手をつなぐ？」と冊子の大きさを指で示されて、「手をつなぐ」を読んでいますよ、とても大切な活動ですから、これからもどうぞ頑張ってください、という内容のお言葉をかけてくださり、賛助会員として、活動を支えてくださっていることがわかったそうです。

又村あおいさん、春より全国育成会の職員に

富山県でもお馴染み、又村あおいさんが、この春より正式に、全国手をつなぐ育成会連合会の職員となることが発表されました。

4分科会に参加して
あざみ園 安川清一

私は、第4分科会「権利擁護・検証！本人の尊厳」に参加しました。野澤和弘さんによる基調講演をはじめ、シンポジストそれぞれの発表の内容は、どれも大変参考になりました。

やさしさが 好きです

したが、その中で特に印象に残ったのは、長崎県の（社福）南高愛隣会・理事長の田島光浩氏による、障害のある人の結婚推進室「ぶっけ」のお話しでした。

南高愛隣会が運営する「ぶっけ」は、障害のある方たちの「ぶっけ」の場所です。愛する人との暮らしを実現することを目的に平成15年に開設され、平成31年までの間に、累計40組のカップルが結婚に至っているそうです。

開設前は、男女は別棟での生活、恋愛は禁止、絶対にご法度。ところがグループホームが広がってくると、過度な性の解放や愛着障害などを背景とした異性との関りが見られ、妊娠に至ったケースでは、周囲が全力で中絶するように説得をしていたそうです。

そんな中、急激に流れが変わったのは、「キラキラ輝いた表情をする利用者は、愛する人が寄り添っている人」だという、理事長の気づきから。

また、ゆっくりと流れを変えていったのは、猛反対にあいながらも、子どもを産み、子育てと仕事の両立に励んだ利用者Aさんの姿が、支援者の偏見と無理解を払拭していったことでした。

「ぶっけ」では、障害のある人もあなたの その運動

普通の人と同じく出会いのチャンスを作り、交際をさりげなくフォローし、愛する人との暮らしを見守り、子育てや家族生活に至っても、豊かな生活が続くようサポートをさせていただきます。

■本人の思いを大切に、その支援は基本的に進めていく。

■本人の思いを大切にすることを基本に進めていく。

■本人と、親・家族との意見が違った場合には、本人の意見を優先する。

……等、本人の思いを確認、尊重し、進め方を一緒に考えるといった「意思決定支援」が徹底されていました。

適切な支援があれば、恋愛や結婚、子育てという人生における重要なライフステージを得ることが可能といえ、ここに至るまでの「幸せづくり」の道のりは、施設職員・家族、それぞれ失敗の連続であった由。関係者のご苦勞は限られた紙面でも表現出来ません。

優生保護法の問題や、出生前診断について議論される今日、「一人ひとりを認め合う」とは何かを、改めて考えさせられた実のある分科会でした。

全国大会

本人大会

「お土産は、絶対あれをはずしたらダメ」

「ラーメンは、こが美味しー」
「〇〇県の〇〇さん、もう熊本に来てるんだって」

熊本への飛行機の中では、いろんな声が飛び交っています。

毎年参加している人、初めて参加する人、欠々に参加する人、みんなが待ちに待った全国大会。熊本にやってきました。

率先して、前に出て踊る！

分科会では、どんどん発言！

交流会では、飲む！食べる！

勿論、ラーメンも食べます！

他県の仲間とも仲良く交流！

お土産は、爆買い！爆買い！

毎年、本人さんたちが、一番全国大会の楽しみ方を知っているように感じます。

事務局が言わなくても、ちゃんと療育手帳を持参して、交流会会場からの帰り道は、熊本の市電を障害者割引で乗車しました。

本当に、しっかりしています。来年の全国大会も楽しみます。

— 無関心 見て見ぬ振りから 差別の芽 —



毎年、積極的に前に出ていく、発言する本人さんたち。なんだか、かっこいいですね！



大好きな又村さんに、意見を言えた、話を聞いてもらった、アドバイスしてもらったと、満足気でした。



他県の仲間と会うことも、全国大会参加の楽しみのひとつ。顔がにやけていませんか？



「思い出観光」の参加者は、特別公開の熊本城、水前寺公園、熊本地震被災地などを見学しました。

権利擁護推進委員会

『親亡きあとの勉強会』各エリアでの展開

Ⅱ引継(何を? 誰に? どのように?)Ⅱ

昨年度(2018年度)、富山市育成会は富山市より、「親亡き後相談支援研究事業」を受託し、「親亡き後の勉強会」を始めまし

た。このことを受け、富山県育成会では、「親亡き後」は障害のある人の親にとつて、年代にかかわらず、共通の悩み、不安、課題でもあるため、権利擁護推進委員会が音頭をとり、富山市育成会の取り組みをベースとした「勉強会」を各エリアで水平展開することになりました。

仲間同士で行った、昨年度の勉強会では、親の不安は『出口』『引継』『安全』の3点に集約されました。

また、障害者本人の課題として、『危機感の弱さ』、『管理能力が不十分(お金・情報・生活全般)』ということが明確になりました。

この結果を受けて、2年目の今年は、『出口』『引継』『安全』の3つの不安の内、「親ができる・しなければならぬ」こととして、『引継(何を? 誰に? どのように?)』について仲間同士で考える「勉強会(ワークショップ)」を、各エリアで行っています。

勉強会では、本人の成育歴から、



— あっあぶない 子供は動く 赤信号 —

子どもの将来のために、「何を引継ぐか(情報・医療・お金等)」、「誰に引き継ぐか」をテーマとし、富山県育成会の「あんしんサポートノート」を使いながら考え、話し合いをしています。

各エリアとも、今年度は参加希望者が増加し、新川エリアでは40名近くになるなど、嬉しい悲鳴も聞こえ、このテーマへの関心が大変高まっているようです。

参加者からは、次のような感想をいただきました。

■初めての参加だったが、1日ですぐにいろいろなことがわかった。

■親が後見人になったとしたら、次は誰に引き継ぐのか考えたい。

■周囲の人には、子どもとは普通に接してほしい。障害を個性と認めてほしい。

■子供には今の生活、将来を楽しんで生きてほしい。

この勉強会は、来年度(2020年)も継続して行いますが、今年度のまとめとして、富山市育成会主催によるフォーラムが開催されますので、多数のご参加をお待ちしております。

「親から地域社会へのバトンタッチ」フォーラム ~支援の今とこれから~

- 日時 令和2年2月7日(土) 13:00~16:30
- 会場 サンシップとやま 6階 602・603・604号室 定員100名
- 講演 「地域共生社会のための支援体制づくり」 富山市福祉保健部次長 中島真由美 氏
- 勉強会報告 細川瑞子(富山市手をつなぐ育成会 副会長)
- 支援の実践フォーラム 「親亡き後生活の支援体制の現状と課題、そして展望」

<お問合せ・お申込み> 富山市手をつなぐ育成会 ☎076-442-8539

権利擁護推進委員会 学齢期「モコモコサークル」

- ◆ 親子でポッチャ体験会 (8月・魚津市)
- ◆ 親子でつくろう!ハロウィンインテリア (10月・富山市)
- ◆ ポッチャ体験&サポートノート学習会 (10月・富山市)
- ◆ チャレンジアート!らくがき大会 (11月・富山市)



ひとりじゃない!

一緒にお話ししませんか?

不安や悩みに寄り添います

いっしょに歩んでいきましよう

— おたがいに 気づかう心で 明るい社会 —

専門家とは違う視点で、同じ親として葛藤や不安に共感しながら寄り添っていくと、昨年度から始まった「学齢期支援プロジェクト」。

まずは、「モコモコサークル」での親子で楽しめるイベントに参加して、育成会を知ってもらおう、親しんでもらおうと活動しています。



親子でポッチャ体験会

魚津市障害者交流センターで、富山県障がい者スポーツ指導者協議会さまに指導していただきました。

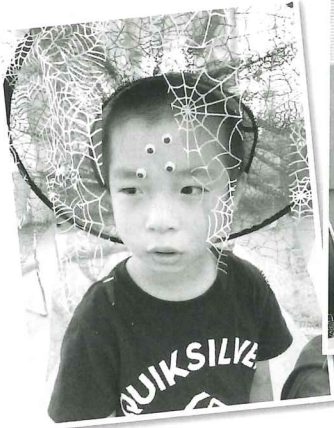
当日は、魚津市出身で、リオパラリンピックのポッチャ競技での銀メダリスト、藤井友里子さんもサプライズで登場し、一緒に汗を流すなど、特別な1日となりました。



親子でつくろう!ハロウィンインテリア

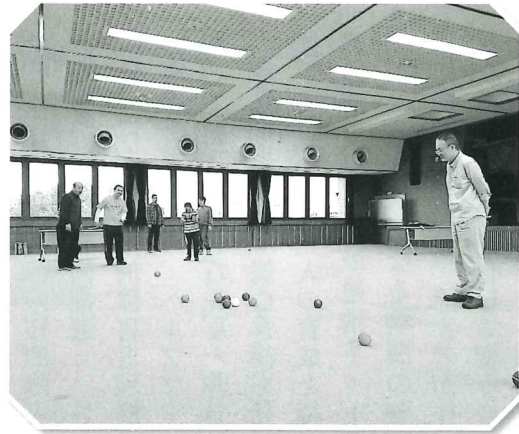
サンシップとやまで、ハロウィンシーズンにぴったりのインテリアづくりをチャレンジ。たくさん好きなものを選び、親子で、ガラス瓶に思い思いの飾りつけをして、仕上げに、瓶の中にライトを入れてできあがり!

作品を並べてくらべてみたり、工夫したところを発表してもらったり、撮影大会をしたりと、楽しい時間となりました。





ボッチャ体験& サポートノート学習会



富山県育成会のスポーツクラブ「サンライズ」の行事に、モコモコサークルがお邪魔し、合同で「ボッチャ体験とサポートノート学習」を行いました。

「富山マラソン」と同じ日となり、交通規制が厳しい中、こじんまりとした人数での開催となりましたが、本人やお子さんは「ボッチャ」を体験。ルールをゆるやかにして、参加者みんなが楽しめました。

保護者は「あんしんサポートノート」の学習会。先輩からの経験談を基に、「障害基礎年金」の

申立てや準備に、ノートのどこが使えるか、どこを書いておけば役立つかなどが中心となったようです。



チャレンジアート! らくがき大会

昨年度から3回目の開催となった、らくがき大会。思いきり、自由に、楽しく、アートのチャレンジです。

開会の挨拶もないまま(事務局的には反省……)、到着した人から自由にアクリル絵の具や、クレヨン、油性マジック等を使い、「らくがき」を楽しみました。

自分の手や足に絵の具を塗ってみたり、いろんな絵の具をこちゃませにしてみたり、気が付いたら、壁に手形がついていたり。手形は終了後、スタッフ一同

「もったいないな、残しておきたいね」と、惜しみながら消してききました。

大声を出しても、飛び跳ねて走



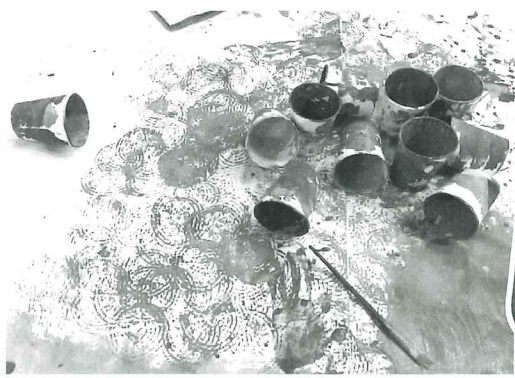
— 人権は かけ声よりも 心がけ —



り回っても、間違っても、失敗しても、大丈夫。保護者の方からは、「家や学校、他の場所ではなかなかこれだけ思い切りできないので良かったです」と、楽しんでもらったようです。

土曜日開催だったため、保護者の仕事やデイサービスの予定等と重なり、前回(2019年2月)開催時より参加者数が少なくなりましたが、「次回も、またぜひ参加したいです!」との声をいただきました。

今後は、周知方法や開催日等、工夫・改善していきたいと思えます。



2月には、昨年度好評だった「プログラミング体験」を開催します。次号の会報で、その様子を報告します。

令和2年度 富山県予算に対する要望書
令和元年10月23日に提出しました

1 権利擁護の推進

(1) 障害者差別解消法や「障害のある人の人権を尊重し県民皆が共にいきいきと輝く富山県づくり条例」の普及・啓発、「ユニバーサルデザイン2020行動計画」の推進など、地域住民や企業、各種団体等への知的障害者理解啓発の一層の推進

2 特別支援教育の充実

徹底を図るとともに、障害者の自立と養護者への支援体制の一層の推進

(1) すべての子どもたちへの「心のバリアフリー」の学習を充実するなど、幼少期からの福祉教育の推進

(2) 地域における知的障害者理解の浸透を図るため、ヘルプマークとヘルプカードの普及・啓発

(2) 教職員に対する知的障害特性や合理的配慮についての理解啓発研修の充実など、特別支援教育の充実強化

(3) 本人の高齢化や親亡き後を見据えて、市民後見人の育成と権利擁護支援の地域連携ネットワークの中核となる機関の整備・機能強化など、障害者が住み慣れた地域で安心して暮らせるための成年後見制度の利用促進

(3) 特別支援学校の教室不足の解消や、特別支援教育における医療的ケア実施体制の充実など、特別支援教育環境の改善推進

(4) 「障害者虐待防止法」の周知

(4) 学校卒業後から生涯にわたって、文化・スポーツ面を含めた障害者の多様な学びや体験機会の充実

3 地域生活支援の推進

(1) 障害のある人とその家族が孤立しないよう、子育て支援や家族支援施策の一層の充実強化と、早期療育を充実するための体制整備

(2) 障害のある人に寄り添いながら、現在の困りごとや将来希望する暮らし方などの「ライフプラン」を一緒に考える相談支援の充実

(3) 障害者の高齢化・重度化や親亡き後に備えるとともに緊急時への対応を図るため、相談や緊急時の受け入れ、体験の場など障害者の生活を地域全体で支える機能を備えた「地域生活支援拠点」の整備

(4) 「我が事・丸ごと」の地域共生社会づくりを進めるため、地域での生活のしづらさや複合的な課題を抱える家族の相談を包括的に受け止めるための、市町村における包括的な支援体制の整備

(5) 重度対応が可能なショートステイの確保と、支援員に対する

障害特性に関する理解啓発研修の充実や適切な支援

(6) 障害者の高齢化や重度化、認知症の発症に対応できるよう、障害福祉と介護・医療との連携や共生型サービスの推進

(7) グループホーム、共生型グループホーム、生活介護事業所等の設置に伴う地域住民に対する理解啓発策の構築、及び整備費所要額の確保

(8) グループホームにおける医療的ケアや強度行動障害、高齢化に伴う特別なニーズ等に対応できる支援員の配置と報酬単価の適正化

4 防災対策・安心安全対策の推進

(1) 知的障害者の障害特性への理解啓発、コミュニケーション支援、誘導支援等を盛り込んだ防災訓練の実施

(2) 災害時における知的障害者専用の避難所や一般の避難所の中での専用スペースの確保

(3) 障害者が避難できる施設の場

令和元年10月23日に、富山県厚生部長をはじめ、商工労働部（労働政策課）、教育委員会（県立学校課）に対して、県育成会から要望活動を行いました。要望後に日頃の思いや懸念事項についても話し合うことができました。



★災害時における避難所での備えについて（厚生部）

災害に備えた平常時の取り組みを進めるため、市町村が地域の実情に応じて作成や見直しができるよう、「福祉避難所の開設・運営マニュアル」を作成し普及に努めている。他県の例や先行優良事例なども周知していきたい。

★地域生活支援拠点づくりについて（厚生部）



先進地の優良事例の紹介や拠点づくりに関わった方を招へいするなどして、支援拠点づくりについて市町村の理解を深めていきたい。

5 就労支援の推進

(1) 障害者優先調達法による発注拡大に努めるとともに、「富山所を、障害者に具体的に提示する仕組みの構築（サービスマン等利用計画での対応や障害者に配慮した情報提供）など、災害時支援の具体化の推進

(2) 県工賃向上支援計画を検証し、障害者が地域で自立した生活を送れるよう、所得保障の拡充。様々な特性を持った知的障害者が、雇用現場で意欲を持って活躍でき、職場定着が図られるよう、雇用現場における相談窓口の設置や合理的配慮の周知徹底

子がまねる 親の正しい 歩き方

令和2年度（2020年） 富山県手をつなぐ育成会 主要行事

令和2年2月現在

開催日（予定）	事業名	場所
令和2年（2020年） 4月29日（水・祝）	令和2年度 理事・監事・支部長会議	呉羽ハイツ
6月21日（日）	第48回 富山県手をつなぐ育成会大会 （下新川エリア大会）	コスモホール（入善町）、うるおい館
※9月4日（金）予定 ※9月25日（金）予定 ※9月25日（金） ※9月24日（木）予定	令和2年度 ふれあい育成スポーツ大会	にいかわ地区……………ありそドーム 富山地区……………富山県総合体育センター 射水・高岡・氷見地区……………竹平記念体育館 となみ地区……………富山県西部体育センター
10月3日（土）～4日（日）	第7回 全国手をつなぐ育成会連合会 全国大会	愛媛県松山市（愛媛県県民文化会館）
10月10日（土）～11日（日）	第48回 手をつなぐ育成会東海北陸大会	静岡県沼津市（プラサ ヴェルデ）
10月24日（土）～26日（月）	第20回 全国障害者スポーツ大会	鹿児島県
未定	全国手をつなぐ育成会連合会 事業所協議会全国研修大会	未定

※ふれあい育成スポーツ大会の日程は2月現在での予定です。

施設部会 全体研修会

11月13日(水)、「施設部会全体研修会」を開催しました。

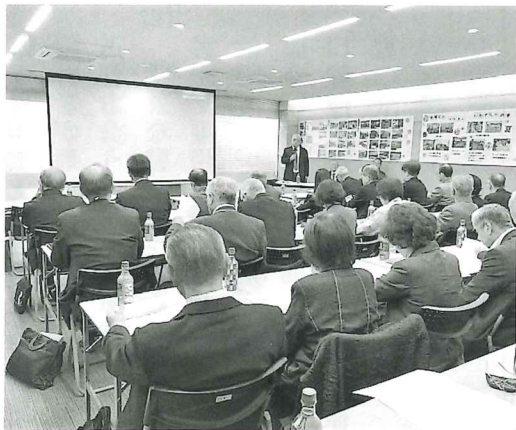
今年度は「社会福祉法人 いみず苑」を会場に、各施設の施設長、保護者会役員等が参加しました。

「いみず苑」の各事業所見学では、どこにも鍵がかけられていない、開かれた施設であることが印象的でした。

利用者の作業内容も多岐にわたり、生活介護事業所であっても、積極的に作業を行っており、ひとりひとりがいきいきと過ごされている様子が見られました。

意見交換会では、「利用者の高齢化・重度化に向けての支援」をテーマに、

- ① 施設利用者の高齢化・重度化に向けての支援、環境整備（介護、医療面等）
- ② グループホーム利用者の高齢化に伴う運営上の課題



- ③ 支援者の人材確保及び育成についての現状と対策等、
について話し合われました。

利用者本人の高齢化は勿論、保護者の高齢化も顕著であることから、親亡き後に向けて、「あんしんサポートノート」の活用が有効であることや、実際に職員と保護者が共にノートの活用に取り組んでいる事例が紹介されました。また、育成会活動を活性化するとともに、この組織力を生かして、人材確保に向けた、具体的な方策がとれないか、との発言もありました。

— 確かめる 確かな注意 身を守る —

地域事業所部会 職員研修会

10月26日(土)「地域事業所部会職員研修会」を開催しました。

県内6つの法人から約80名の職員が参加し、開会式では県厚生部障害福祉課・大村課長様、県育成会・四方理事長から激励の言葉をいただきました。

15回目となる今回は、自閉症スペクトラム支援のエキスパートとして、県内外で障害のある人やご家族、支援職員等に、あたたかく寄り添い続けられている前田宣子さんを講師にお迎えし、参加者同士のグループワークを中心に進めました。

そのグループワークでは、「過去に起きた問題で、現在は改善された事例」をテーマに意見交換を行いました。

「改善した事例の中には、現在抱える困難事例や利用者支援へのヒントがたくさんあるはず」とい

う、前田先生の助言のとおり、各グループで実際に取り組んできたことが熱心に話し合われ、職員の皆さんが、日々、真摯に利用者に向き合っている様子が伺えました。



困り感を抱える本人のために、時間はかかるけれども、愛情を持って接し、職員、関係機関、保護者が連携をとり合い、愛情と専門性を備えた根拠のある支援により、「一貫した支援」を続けていくという大切さを、学び合う機会となりました。

一般社団法人 全国知的障害児者生活サポート協会 富山県知的障害児者生活サポート協会 からのお知らせ

日頃より、生活サポート総合補償制度にご加入を賜り誠にありがとうございます。

さて、2019年度生活サポート総合補償制度が、2020年4月1日にて満了日となります。

「所属先・住所・氏名・電話番号等に変更がある方」、「契約者を変更されたい方」、「補償制度を継続されない方」は、近々お手元に継続のご案内が届きますので、同封のハガキにて手続きをお願いいたします。そのまま継続希望の方は、手続き不要です。

下記に給付事例を紹介しますので、ご参考になさってください。

まだご加入されていない方は、どうぞこの機会にご検討ください。

「加入していてよかった！」サポート保険

ケガ

- ① 保護者が運転している車の助手席に搭乗中、スリップ事故を起こし検査のため通院。

(通院6日間) Bプラン | 保険金：18,000円

- ② バスに乗車する際、よそ見をしており転倒。手首を骨折し通院。

(通院20日間) Bプラン | 保険金：60,000円

身近な事例から



病気

- ① 結核の疑いがあり肺を切除するため入院。

(入院11日間) Aプラン | 保険金：101,000円

- ② たまごアレルギー検査のため入院。

(入院3日間) Bプラン | 保険金：30,000円

賠償

- ① スーパーへ買い物に行った際、不穩になり店内のガラスを足で割る。

保険金：60,000円

- ② 手に持っていたペットボトルを走行中の他人の車にむかって投げつけ破損させる。

保険金：91,000円

パンフレットのご希望など、お問い合わせは下記までお気軽にご連絡ください

◆富山県知的障害児者生活サポート協会

電話 076-441-7161 FAX 076-441-7255 (平日9時30分～16時30分)

◆担当代理店 ジェイアイシー金沢

電話 076-223-0323 FAX 076-223-0368 (平日9時～17時)

災害義援金活動(報告とお礼)

九州北部水害並びに

台風15号及び19号等大規模激甚災害

各支部を通し、多大なご協力をいただき心より感謝申し上げます。

義援金総額

1,007,400円



令和2年1月21日、全額を全国手をつなぐ育成会連合会に送金いたしました。お寄せいただいた義援金は、全国育成会連合会とおして、被害を受けられた育成会会員の方々へ届けられます。

お礼



富山県保育士会様より、今年もたくさんのタオルをいただきました。作業所での自主制作製品に利用するなどして、大切に使用させていただきます。どうもありがとうございます。

横断は 目で確認 手で合図

受章・表彰 おめでとございます

秋の叙勲 旭日中綬章

富山県手をつなぐ育成会

理事長 四方正治氏

8期32年務めた県議会議員として、海王丸誘致や新湊大橋建設、伏木富山港の機能強化等、富山県の発展に尽力されるとともに、一貫して障害者問題に力を注いでこられました。

厚生労働大臣表彰(社会福祉功労者)、全国手をつなぐ育成会連合会会長表彰

富山県手をつなぐ育成会

理事 細川瑞子氏

全日本手をつなぐ育成会(現・全国手をつなぐ育成会連合会)の中央相談室長、権利擁護センター運営委員として、知的障害者の権利擁護と福祉の向上に尽力されました。

現在、富山県育成会の権利擁護推進委員会委員長として、ご尽力いただいております。



育成会の動き

期 日	内 容	期 日	内 容
【報告】		【予定】	
12/11(水)	親亡き後勉強会(富山市総合福祉センター)	2/18(火)	特別支援学校知的障害教育校PTA連合会役員会(婦中ふれあい館)
12/12(木)	親亡き後勉強会(大島社会福祉センター)	2/19(水)	施設部会・事業所部会(サンシップ)
12/19(木)	バリアフリー意見交換会(サンシップ)	2/27(木)	全国サポート協会第2回理事会(東京)
1/9(木)	県小学校・中学校長会(教育記念館)	2/29(土)	障害者年金・サポートノート研修会(サンシップ)
1/11(土)	障害者成人式(カナルパークホテル)	3/4(水)	全国手をつなぐ育成会連合会 育成会フォーラム(東京)
1/22(水)	県障害者虐待防止・権利擁護研修会(サンシップ)	3/5(木)	全国育成会連合会 代表者・事務局長会議(東京)
1/23(木)	富山障害フォーラム会議(富山市)	〃	全国育成会連合会 行政説明会(東京)
1/24(金)	育成会理事会・新年会(とやま自遊館)	3/11(水)	運営委員会(サンシップ)
1/26(日)	困りごとと悩みごと相談ワークショップ(サンシップ)	3/17(火)	権利擁護推進委員会(サンシップ)
2/1(土)	「地域共生の輪を広げよう」講演会(富山市立新庄北公民館)	3/25(水)	育成会理事会(サンシップ)
2/9(日)	学齢期モコモコサークル「プログラミング」(県総合情報センター)	〃	サポート協会理事会(サンシップ)
2/11(火)	本人活動部会(県広域消防防災センター)		
2/12(水)	全国手をつなぐ育成会連合会 総会(東京)		